

2023(令和5)年度 伊賀市文化振興プラン 事業カード提出一覧(公益財団法人 芭蕉翁顕彰会、前田教育会)

(令和6年7月12日現在)

資料4

【基本方針1】誰もが文化芸術に触れ合える機会の創出（施策の方向Ⅰ 心の豊かさを目指して、Ⅱ 文化芸術をすべての市民に）																
No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン 基本方針	事業目的	R5			R5 目的達成度、課題など実施により感じたこと	R6 方向性	R6 計画時	市総合計画	まちづくりアンケート		
							計画時	実績						R4	R5速報値	
1		令和5年度 俳句入門教室	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-Ⅰ 1-Ⅱ 3-Ⅰ 5-Ⅰ 7-Ⅰ	日常的に俳句に親しむきっかけとして、どこから・何から始めたらよいのか手ほどきから、句会に参加できるまでを学び、俳句人口増加をめざす。 芭蕉生誕地であり俳人が多いとされる伊賀で、子どもの頃の宿題が大変であり、大人になっても苦手意識のある人も多い。苦手のままではなく、俳句は楽しいもの、続けてみたいという思いをもつ。	参加者数	60	27	定員20名としているが、各回平均10名で、初心者の学びや句会には丁度良い人数である。 その中から、幾人かは市内の句会に参加し始めた。 終了者の中から、献詠俳句児童生徒の部選者が誕生した。	継続	60				
							開催数	3回	3回			3				
							開催経費	50,000	44,000			50,000				
							収入	2,000	1,500			1,000				
2		令和5年度 気楽に俳句会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-Ⅰ 1-Ⅱ 3-Ⅰ 5-Ⅰ 7-Ⅰ	俳句入門教室を修了したが、どこの句会にも参加できず、せっかく始めた俳句を作る機会としての句会とする。 また、コロナ過で様々な句会や俳句大会が中止され、句会の機会の無い人々に熟練、初心関係なく和気あいあいとした句会で俳句を楽しむ。	参加者数	40	19	参加人数が少ないため、周知方法を検討する。	継続	40				
							開催数	2回	2回			2				
							開催経費	30,000	35,000			30,000				
							収入	0	1,200			3,000				
3		研修・講師派遣事業	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-Ⅰ 1-Ⅱ 2-Ⅰ 2-Ⅱ 5-Ⅰ	地域や学校などで、芭蕉さんのことや俳句作りの教室研修の講師について依頼があった場合に、講師の紹介及び派遣により、それぞれの研修の支援をする。	参加者数	-	-	毎年同地域からの依頼があるが、一定の地域に留まっている。	継続	-				
							開催数	-	3			-				
							開催経費	-	-			-				
							収入	-	-			-				
4		大人の寺小屋	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-Ⅰ 4-Ⅰ 5-Ⅰ	史跡芭蕉翁生家で、芭蕉さんのお父さんが子どもたちに読み書きを教えていたとのことに倣い短時間で継続性のある内容で行う。	参加者数	48	44	今までなかった講座であり、短時間分かり易いと好評を得た。定員が毎回12名と少ないので、参加できなかった方へ資料の提供をした。	継続	-				
							開催数	4	4			-				
							開催経費	22,000	22,000			-				
							収入	1,000	900			-				
5		丸之内地下道掲示板 芭蕉さんの句及び季節の句掲示	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-Ⅰ 1-Ⅱ 2-Ⅰ 2-Ⅱ 4-Ⅰ	毎日通る高校生などが、俳句によって季節の移り変わりを感じることが出来る。 また、観光客などは、季節だけでなく、芭蕉さんのふるさとと伊賀らしさを感じることができる。	参加者数	-	-	広告効果を上げるために、掲示板の開閉しやすさ、また常時清掃しやすい設備が必要。	継続	-				
							開催数	-	-			-				
							開催経費	-	-			-				
							収入	-	-			-				
6		芭蕉講座	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-Ⅰ 5-Ⅰ	芭蕉、俳句、俳諧の研究者や俳人の講演により俳文学の振興等を図る。	参加者数	100人	43人	芭蕉や俳文学の研究家の講演は難しいという印象を与え、俳人の講演であると、若干参加者が増える。	継続	100				
							開催数	1回	0回			1				
							開催経費	120,000	80,000			170,000				
							収入	5,000	3,500			5,000				
7		蕉門大学フォトゼミナール	公益財団法人 前田教育会		7-Ⅰ	平成11年4月から主に風景写真に取り組んでいる。写真活動を通して、作品を磨いていく。	参加者数	15人	14人	和らかな雰囲気で行っている。	継続	15人				
							開催数	12回	12回			12回				
							開催経費	-	-			-				
							収入	180,000	168,000			-				
8		蕉門大学絵画教室	公益財団法人 前田教育会		1-Ⅰ	2004年(平成16年)油絵教室から始まる。講師の交替を重ねながら現在に至る。個性の表現、自分らしい絵を見つける。	参加者数	20人	4人	年度途中に1名参加となり4名に。	継続	10人				
							開催数	24回	24回			24回				
							開催経費	-	-			-				
							収入	-	-			-				
9		蕉門大学俳句教室	公益財団法人 前田教育会		1-Ⅰ 5-Ⅰ	2004年(平成16年)芭蕉生誕360年を迎えるにあたり、2002年(平成11年)から始めた。俳句に親しむ、俳句人口を増やすことを目的に、初心者を対象に募集している。	参加者数	20人	4人	2023年度で第22期生となる。「俳句」は敷居が高いと思われる。	継続	15人				
							開催数	12回	12回			12回				
							開催経費	-	-			-				
							収入	-	-			-				
10		蕉門大学講座ピアノレスナーグループ「ボンミスト」第9回事業アンサンブルの楽しみVol.2～ピアノトリオ～	公益財団法人 前田教育会		1-Ⅰ 2-Ⅱ 7-Ⅰ	コンサートピアノを最大限活用したいという想いから、運営委員洋楽担当を中心にピアノレスナーグループ「ボンミスト」を編成。バイオリン、チェロ、ピアノのアンサンブルの魅力を味わって欲しい。	参加者数	-	-			200人				
							開催数	-	-			-				
							開催経費	-	-			-				
							収入	-	-			-				

【基本方針2】子どもたちが文化芸術を体感できる機会の拡充（施策の方向Ⅰ 子どもたちの心を豊かに、Ⅱ 成長に即した文化芸術の提供）

No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン 基本方針	事業目的	R5		R5	R5	R5	R6	R6	市総合計画	まちづくりアンケート			
							計画時	実績				計画時		施策				
11		令和5年度 こども俳句教室	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		2-I 2-II 5-I	俳句を楽しく学び、俳句が好きな子を増やす。 将来的には、こども句会を定期的(月1回)に開催し、その句会には、都合のつく子が自由に出入りできるようにする。	参加者数 開催数 開催経費 収入	60人 3回 40,000 3	0人 0回 9,300 0	土曜日開催であるが、高学年になると他の事業予定と重複し参加しにくい。また、小学1年生と6年生と一緒に指導するのは難しい。 子ども向けの別の事業を検討する。	中止・廃止する 他の事業との組み合わせる。	- 						
	12	令和5年度 夏休みこども俳句指導	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		2-I 2-II 5-I	長年「俳句の日」に“こども俳句教室”を行い、芭蕉翁献詠俳句の事業として夏休みの宿題になっている「献詠俳句」の指導を行っていたが、当日の成果発表もないため、複数日の個別指導の機会をつくる。 都合のよい日、よい時間に、個別に指導を受けることができる。	参加者数 開催数 開催経費 収入	60人 3回 42,000 0	22人 3回 57,000 0	初年度であったため、PR不足。2回目からは口コミで参加者が増えた。 夏休み終盤は参加者が少ない。	継続	60 3 50,000 0						
		13	令和5年度 こども俳句合わせ (バトルバナナ)	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		2-I 2-II 5-I	芭蕉翁が「貝おほひ」を上野天満宮へ奉納したことに弔り実施。 こどもたちが俳句を楽しむために、一定のゲーム性を持たせる。	参加者数 開催数 開催経費 収入	36人 1回 100,000 0	0人 1回 14,400 0	初年度である令和4年は、新型コロナの第7波の到来により、チーム募集後、大会直前に中止決定した。 本年度は再開した夏祭り日程が重複したこと、周辺駐車場が使用不可などで、急遽中止した。。	継続	36 1 100,000 0					
			14	こども蕉門大学	公益財団法人 前田教育会		2-I 5-I	開館25周年を基に、小中学生を対象とした蕉門大学を開催している。次世代に伝授すべきことがあり、そこから感性、自由な発想を伸ばすにつながる体験をする。	参加者数 開催数 開催経費 収入	50名 組みひも10名 の仕組み20名 俳句20名	14名 組みひも6名 の仕組み5名 俳句3名	・ピアノの仕組みを知ろう 参加者自身がピアノを習っているのも興味をひいた様であった。 ・はいく教室 保育園児の参加があった。 日程的に無理があった。	継続	各10名 				
				15	伊賀上野しょうもん亭	公益財団法人 前田教育会		2-II 7-I	1992年開館当初、落語会を催していたが、落語が一時低迷になり休止。2013年辺りから再び落語ブーム到来となり、復活したい思いから再開。	参加者数 開催数 開催経費 収入	平均120人 4回 	平均80人 4回 	出演者によることも考えられる。10年目(12月3日)を迎えられた。	継続	210人 3回 			

2023(令和5)年度 伊賀市文化振興プラン 事業カード提出一覧(公益財団法人 芭蕉翁顕彰会、前田教育会)

(令和6年7月12日現在)

資料4

【基本方針3】担い手や後継者を育成し次世代へと繋ぐ(施策の方向Ⅰ 人づくりとまちづくり、Ⅱ 多様な人材活用による文化芸術の振興)

No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン 基本方針	事業目的	R5		R5 目的達成度、課題など実施により感じたこと	R6 方向性	R6 計画時	市総合計画 施策	まちづくりアンケート	
							計画時	実績					R4	R5速報値
16		蕉門大学陶芸教室	公益財団法人 前田教育会		3-Ⅰ 4-Ⅰ 7-Ⅰ	伊賀焼きを身近に感じることを目的に、初級、中級、上級と幅広く参加できる。	参加者数	15人	参加人数と収入については、達成度は低い。作品展の来場者に声をかけるが「プーム」ということも一因ある。	継続	10人			
							開催数	9回			9回			
							開催経費				-			
							収入	135,00			-			
								45,000						

【基本方針4】施設の整備・有効活用による文化芸術環境の整備(施策の方向Ⅰ 施設の管理と機能の発揮、Ⅱ 施設の保存と有効活用)

No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン 基本方針	事業目的	R5		R5 目的達成度、課題など実施により感じたこと	R6 方向性	R6 計画時	市総合計画 施策	まちづくりアンケート	
							計画時	実績					R4	R5速報値
17		蓑虫庵管理事業	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		4-Ⅰ 4-Ⅱ	芭蕉翁ゆかりの蓑虫庵を保存・管理し、一般の参観に供することによって市民文化の向上及び文化の振興を図るとともに、地域の振興に資する	参加者数	2,000人	定休日以外に休庵することなく運営したが、参観者は前年より、およそ900人の減少である。 また、茶会利用者もやや復活した。	継続	2,000			
							開催数							
							開催経費	5,581,000			6,295,000			
							収入	5,385,000			6,202,000			
18		蓑虫庵講座	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		4-Ⅰ 4-Ⅱ	芭蕉の弟子服部土芳の庵管理の一環として、毎年春分の日に土芳や芭蕉について、学芸員が講演を行い、春めいた蓑虫庵参観のを促す。	参加者数	30人	講演会には会場が狭隘。	継続	30			
							開催数				-			
							開催経費	10,000			20,000			
							収入	1,000			1,000			
19		史跡芭蕉翁生家管理事業	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		4-Ⅰ 4-Ⅱ	俳聖松尾芭蕉ゆかりの史跡芭蕉翁生家を保存・管理し、一般の観覧に供することによって市民文化の向上及び文化の振興を図るとともに、地域の振興に資する	参加者数	5,000人	再開2年目で、定休日以外に休館することなく運営したが、参観者は前年より、およそ900人の減少である。	継続	4,000			
							開催数				-			
							開催経費	5,160,000			5,290,000			
							収入	5,290,000			5,485,000			
								4,693,760						

【基本方針5】歴史と風土が育む文化芸術の継承と新たな文化芸術の創造(施策の方向Ⅰ 郷土が育んできた歴史・文化の再評価、Ⅱ 新しい文化芸術の創造)

No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン 基本方針	事業目的	R5		R5 目的達成度、課題など実施により感じたこと	R6 方向性	R6 計画時	市総合計画 施策	まちづくりアンケート	
							計画時	実績					R4	R5速報値
20		令和5年度(第77回)芭蕉祭	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		5-Ⅰ	芭蕉翁が元禄7年(1694)10月12日、51歳で亡くなった翌年から毎年開催し、翁を偲ぶ。	参加者数			継続	-			
							開催数	1回			1回			
							開催経費	7,033,000			6,106,691			
							収入	6,503,000			6,618,000			
21		令和5年度(第77回)芭蕉祭 月見の献立歓迎会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		5-Ⅰ	復元研究した「月見の献立再現の会」により調理され、世に広め後世へ伝えていく。	参加者数	30人		継続	30			
							開催数	1回			1回			
							開催経費	130,000			93,202			
							収入	-						
22		令和5年度(第77回)芭蕉祭 全国俳句大会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市	1-Ⅰ 1-Ⅱ 5-Ⅰ	芭蕉祭式典終了後、参列者が俳句大会で芭蕉翁を偲ぶ。	参加者数	80人	選者の数が一定せず、当日まで選者名の公表をしていないため、参加者が少ない。 新型コロナの影響を受け、人数制限をしていたため、その後の参加者も少ない。	継続	80				
						開催数	1回			1回				
						開催経費	290,000			228,851				
						収入	0			0				
23		令和5年度しぐれ忌	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市	5-Ⅰ	芭蕉祭を新暦で実施しているのに対し、旧伊賀町の芭蕉翁顕彰会が旧暦の命日に芭蕉翁を偲び実施していた。市町村合併、顕彰会合併を経て、当日の運営を地元山出地区「しぐれ忌協賛実行委員会」に委託し、翁を偲ぶ。	参加者数	100人	俳聖殿の芭蕉祭と柘植萬壽寺でしぐれ忌を行っている。しぐれ忌も伊賀市全体を対象としているものの、関係者以外の参加者のほとんどが旧伊賀町の人に限られている。	継続	100				
						開催数	1回			1回				
						開催経費	300,000			300,000				
						収入	0			0				
24		令和5年度 土芳忌	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会	5-Ⅰ	芭蕉翁の句や教えをまとめ後世へ伝えた芭蕉の弟子、伊賀蕉門の中心であった服部土芳のを称え、偲ぶ。	参加者数	30人	忌日の1月18日は大寒であり、毎年寒いが、特に今年は冷たい雨で高齢の方の参列が少なかった。	継続	100				
						開催数	1回			1回				
						開催経費	20,000			20,000				
						収入	0			0				
25		令和5年度 土芳忌追善の講話	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会	5-Ⅰ	芭蕉翁の句や教えをまとめ後世へ伝えた芭蕉の弟子、伊賀蕉門の中心であった服部土芳のを称え、偲ぶ。	参加者数	30人	忌日の1月18日は大寒であり、毎年寒いが、特に今年の寒さは厳しく法要同様参加が少なかった。	継続	50				
						開催数	1回			1回				
						開催経費	5,000			0				
						収入	0			0				
26		令和5年度 土芳を偲ぶ俳句会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会	1-Ⅰ 5-Ⅰ	芭蕉の弟子、服部土芳の命日に俳句会を行い土芳を偲ぶ。	参加者数	50人	土芳を偲ぶ俳句会であるため、当日の法要の様子を詠んだ句が多く、法要に参列しない人は参加しにくい。	継続	50				
						開催数	1回			1回				
						開催経費	40,000			28,000				
						収入	0			0				
27		令和5年度 俳句の教え方教室	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会	2-Ⅰ 2-Ⅱ 5-Ⅰ	市内の小中学校では芭蕉祭に献詠するため、俳句が夏休みの宿題となっている。 献詠俳句の指導だけでなく、俳句裾野を広げる指導者が、俳句指導の取組方について学ぶ。	参加者数	30人	伊賀の学校では、俳句学習の重要性を認識されているため、積極的な参加及び意見も活発に出された。	継続	20				
						開催数	1回			1回				
						開催経費	10,000			3,500				
						収入	0			0				

【基本方針7】文化芸術を通した社会的課題への取り組み(施策の方向Ⅰ 社会参加のきっかけづくり、Ⅱ 協働の場の創造)

No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン 基本方針	事業目的	R5			R5 目的達成度、課題など実施により感じたこと	R6 方向性	R6 計画時	市総合計画 施策	まちづくりアンケート		
							計画時	実績						R3	R4速報値	
28		蕉門キネマゼミ	公益財団法人 前田教育会	共催 伊賀市社会福祉協議会	7-Ⅰ	伊賀市社会福祉協議会と共催事業として取り組む。社会での様々な問題と社協の取り組んでいる生活課題を考慮に入れ、且つ、地域の方々の要望作品を上映。	参加者数	300人	236人	予約を取っている時点から反応が良かった。 10月にホール閉鎖が決定し、来年2024年7月以降は上映することができない。		300人				
							開催数	-	2回			1回				
							開催経費									
							収入	-								
29		蕉門キネマゼミ	公益財団法人 前田教育会		1-Ⅰ 2-Ⅱ	蕉門ホール施設さよなら上映会として行う。	参加者数	-	-			600人				
							開催数	-	-			3回				
							開催経費									
							収入	-	-							